

2025

ぶうげん
びりあ11
月号

No.380

ホームページ <http://www.hahashouchu.ogasawara.ed.jp/>

楽しんで輝くためにも

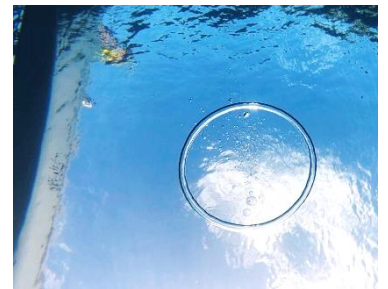
後期課程 副校長 山口 優



母島小中学校に赴任して『さすが母島の学校！！』と思うことがいくつもある。2学期に入ってから思うことが、またあった。それはプールでの水泳指導が9月から始まったこと。母島に赴任する前は保健体育科教員として勤めていたので、水泳授業はウン十年も行ってきた。都内他地区の学校では9月になると気温も水温も下がり(最近は違いそうですが)、なかなかプールに入るのも気が進まない。9月の2週目にはだいたい水泳授業が終了となる。それがこの島では9月の2週目から始まった。そんな水泳に関する気になるニュースがあった。

『学校のプール授業減少で“泳ぐ場のない子ども”が続出』

プール授業を行わない学校が急増しているというのである。座学で補っている学校もあるそうだ。理由は様々ある。「施設の老朽化」「コロナによる児童・生徒の水泳離れ」「猛暑による熱中症警戒」「児童・生徒の水着への抵抗感」「教員の負担過重」などなど。確かにどれも克服しなければならない課題ではある。でも、泳ぎ方を学ばない子どもたちが増えるとどうなるのか？そもそも、学校教育の中で水泳を取り上げるようになった理由を知っているだろうか？



昭和30年に修学旅行生を乗せた船が沈没し、小中学生168人が犠牲になった事故が起こった。その2カ月後には海水浴訓練中に中学女子生徒36名が犠牲となった事故が起きた。この悲しい事故を機に水泳の必要性が高まった。その後の昭和43年の学習指導要領改訂の際に「水泳」が盛り込まれた。

本当に水は怖いもの。口と鼻を塞ぐだけの量があれば命を奪う。残念ながら、私自身、海で命を落とした人に遭遇する場面が何度かあった。心肺蘇生法を施す最中に聞こえてくる家族の叫び声。必死になって名前を呼ぶ叫び声。今でも記憶に残っている。『泳ぎ方を学ぶことは命を守ることにつながる。』それは紛れもない事実だ。確かに泳げなければ、そもそも水辺に行く機会は減るかもしれない。でもあの事故のような、万が一が無くなることはない。気が進まなくても友達と行くことがあるかもしれない。母島の子どもたちは、日本で一番海に入る機会が多いと言ってもいいと思う。だからこそ海上保安署による安全指導を行ったり、脇浜での水泳指導を行ったり、スノーケリング学習も行っている。でもいくら学習しても一番怖いのは『油断』と『過信』。常に自然をリスペクト(尊敬、尊重)しながら上手に付き合ってほしいと思う。

多くの学校が水泳授業を行わなくなっていく怖さを感じながら、今年度も事故無く水泳指導を終えられたことに安堵しています。PTA 体育部の皆様、プール開放もありがとうございました。

命があれば、輝ける場も楽しいことも、成長する場もたくさんあります。いよいよ11月2日は学芸会です。児童・生徒の輝きながら楽しんで成長している姿を楽しみにしています。保護者、地域の方々もぜひご参観ください。

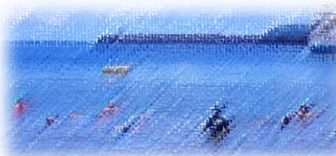
7月に海上保安署より講師の方をお招きし、海での安全指導として【命を落とさない】ための講義をしていただきました。『浮いて待て』をキーワードに、道具を使った救助の待ち方やバランスをとって自分の体を浮かせる練習をしました。

人間は空気を吸うと、体全体の2%だけ水に浮くようにできています。背浮きができると体の2%にあたる口と鼻が出てきて呼吸をすることができるのです。道具を使わずに体をリラックスさせて浮けるようになったり、ペットボトルを浮力体として使いながら背浮きの姿勢を維持したりできるようになりました。

脇浜での水泳授業や水辺活動も行いました。小学部は、水泳の上達に向けて、水に慣れながら楽しく練習に取り組みました。普段は泳いだり、SUPをしったりと楽しむことが多い脇浜ですが、今回はもぐる・浮く・泳ぐといった基礎練習に対し真剣な表情で頑張る姿が見られました。中学部は、カヤックやカヌーを使った水辺活動を行いました。カヤックでは落水からのリカバリーにも挑戦し、実践的な技術を身に付けました。また、小笠原とゆかりのあるアウトリガーカヌーでは、その歴史にも触れながら海での活動を楽しむことができました。

9月からは学校のプールでの水泳授業が始まり、先生や仲間と一緒に各泳法の練習を丁寧に行いました。撮影した映像を確認しながら、自分のフォームを振り返るなど、より速く、より長く泳ぐことを目指して意欲的に取り組む姿が見られました。

10月18日には小学部・中学部合同で「プール納め」を行いました。かわいらしいリズム水泳の発表から上達した泳ぎ、迫力ある泳法の披露やリレーまで、それぞれがこれまでの練習の成果を発揮しました。子どもたちの笑顔と達成感にあふれた、素晴らしい締めくくりとなりました。



ヤシの木教室って、どんなところ？

小学部 ヤシの木教室担当

「特別支援教室（通称“ヤシの木教室”）」は、2019年に設置されました。この教室では、子どもたちが学習や学校生活で感じる困りごとを解決し、できることを増やすお手伝いをしています。教室の利用は週に1回で、一人一人のペースやニーズに合わせた特別なカリキュラムに基づき、個別指導が行われます。また、ヤシの木教室で学んだことを日常生活や学校の授業でも役立てられるように、担当スタッフが普段の授業や活動に参加して、サポートをしています。さらに、子どもたちの得意を伸ばし、苦手なことにも前向きに取り組めるように、専門家のアドバイスを取り入れながら指導方法を工夫しています。

子どもたちが笑顔で成長する姿は、ヤシの木教室のスタッフにとって何よりの喜びです。

ヤシの木教室は、みんなの「できる」をふやします。

勉強がよくわからないな。
 思ってることがうまく伝わらないな。
 友達と仲良くしたいのに、うまくいかないな。
 イライラする! どうしたらいいの?
 頑張ってるのに、うまくいなくて、いやになっちゃうよ。

ヤシの木教室で勉強してみよう!

苦手なことが少しずつできるようになってきたぞ! 学校がもっと楽しくなったよ!

このような願いをもって指導します

- ・自分の力を発揮し、楽しい学校生活を送ってほしい。
- ・友達と上手にかかわり、集団活動にうまく参加できるようになってほしい。
- ・自分の気持ちや行動をコントロールできるようになってほしい。
- ・集中力をつけて、落ち着いて学習に取り組めるようになってほしい。
- ・自分の気持ちや思いを表現できるようになってほしい。
- ・学習や運動で苦手なことに、諦めないで取り組めるようになってほしい。

My Life in Hahajima

Hello everyone!

This is my second year living in Hahajima, and I want to share some of my unforgettable experiences on this beautiful island. During my time here, I've learned to truly enjoy the events that make this place special, such as the Henkan-sai, the canoe event, and Ohana. In the Philippines, we also have many festivals and big celebrations, but experiencing another country's culture and traditions is a whole new level. My favorite event is the Henkan-sai. I love dancing the Bon Odori, performing hula, watching the exciting fireworks, and of course, eating delicious Japanese food. I realized how rich Japan is in culture and tradition.

Living here also made me understand what it really means to live in another country. It took me several months to accept that I'm far from my hometown. I'm very grateful to everyone who has been part of my journey -----the people I greeted every day, the friends I made, and those I shared laughter with. Everything in life is temporary. I know that one day I will return to my home country, but I will always be thankful to everyone who made my Hahajima life warm, memorable, and meaningful.

Thank you all for making me feel that I belong here.



皆さん、こんにちは！

母島での2年目を迎え、この素晴らしい島での忘れられない経験をシェアしたいと思います。ここにいる間、返還祭やカノー大会、オハナといった、この島を特別な場所に行っている本当に素晴らしい行事等を知りました。私の生まれた国、フィリピンにもたくさんの祭りや盛大な祝い事がありますが、他の国の文化や伝統を体験するのはまったく別の次元の感動です。特に楽しかったのは返還祭です。盆踊りやフラダンス、見事な花火、そしてもちろん日本のごはんを食べることも大好きです。改めて日本の文化や伝統のすばらしさに気付きました。

ここに住むことで、「外国で暮らす」ということの本当の意味を理解するようにもなりました。自分がふるさとから遠いところにいると実感するまでに数か月かかりました。私の人生の一部となってくれた方々に心から感謝しています——毎日挨拶を交わした人々、出会って友達になった人たち、そして笑いを分かち合った仲間たちに。人生のすべては短く、いつきのものです。いつか母国に帰る日が来ることは分かっていますが、母島での生活を温かく、思い出深く、そして意味あるものにしてくれたすべての人々に、私はいつまでも感謝し続けます。

ここに自分の居場所があることを実感させてくださる皆様、とても感謝しています。

11月の生活指導

生活目標

「落ち着いた学校生活を送ろう」

- 教室の環境を整えよう。
- 言葉遣いに気を付けよう。
- ものを大切にしよう。

安全指導 4日(火)

「校舎内での過ごし方」が、重点指導目標です。

落ち着いて学習に取り組み、安全な学校生活が送れるように、休み時間の校舎内での安全な過ごし方やルールなどについて指導します。

避難訓練 6日(木)

不審者が学校に侵入してきた場合を想定した避難訓練を行います。放送や指示をしっかりと聞きとり、指示どおりに冷静に行動できるよう訓練を行います。母島駐在所の協力のもと行っていきます。

ロードレース大会について

大会当日の交通規制のお願い

今年度も母島小中学校ロードレース大会を実施いたします。

日時 12月2日(火)

午後1時20分～午後3時10分

それに伴い午後2時10分から午後3時頃まで交通規制を行います。規制解除は一斉に行い、解除時刻は早まる場合があります。地域の皆様には、ご迷惑をおかけいたしますが、子供たちの頑張る姿に、応援をよろしく願いいたします。詳細は別紙をご覧ください。

予備日 12月8日(月)

※ 実施時刻は同じです。



小学部 11月の校外学習について

- 11日(火) 南崎校外学習 5年生
 12日(水) 北村校外学習 4年生
 28日(金) たてわり遠足 全学年

まだまだ暑い日が続きます。どの校外学習も歩く活動が多くなります。こまめな水分補給を心がけ、活動をさせたいと考えています。水筒を体にかけるよう準備してください。

ご協力お願いします。

11月の主な行事予定

1	土		16	日	
2	日	学芸会	17	月	【小】図書委集会 【小】クラブ
3	月	文化の日 学芸会ヨ①	18	火	
4	火	朝礼 安全・保健指導 避難訓練(不審者対応訓練)	19	水	【中】期末考査①
5	水	赤い羽根共同募金～7日	20	木	【中】期末考査②
6	木		21	金	【中】期末考査③
7	金		22	土	
8	土	学芸会ヨ② 【中】実力テスト	23	日	勤労感謝の日 【中3】スピーキングテスト
9	日		24	月	振替休日
10	月	中朝礼 補食給食 【小中】委員会 SC 来校～12	25	火	
11	火	【小5】南崎校外学習 【中3】保育実習	26	水	【小】4年生集会 村内清掃 【中1】小笠原中交流授業
12	水	【小4】北村校外学習	27	木	歯科検診
13	木		28	金	【小】たてわり遠足
14	金		29	土	
15	土		30	日	



学校図書室開放日 6(木)・13(木)・20(木)・27(木)14:00～16:30